

平成 23 年度

社会福祉振興助成事業 報告会

「つながりが生みだす活動の新しいステージ」

【と き】 2011 年 10 月 22 日 13 : 00 ~ 16 : 10

【と ころ】 ビル葆光 7 階ホール (京都市中京区)

【主 催】 独立行政法人福祉医療機構

【運 営】 NPO 法人きょうと NPO センター

目次

- 開催にあたって.....1
- プログラム.....2
- 基調講演.....3
「子ども家庭福祉環境をめぐる変化とNPO活動への期待」
流通科学大学サービス産業学部 教授 加藤 曜子 氏
- 助成事業報告①.....12
平成 21 年度助成事業
「つながりづくり支援者向きハンドブック作成事業」
特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク
理事長 藤本 明美 氏
- 助成事業報告②.....23
平成 21 年度助成事業
「出産直後のメール情報提供から仲間作り事業」
特定非営利活動法人 亀岡子育てネットワーク
理事長 田中 美賀子 氏

開催にあたって

独立行政法人福祉医療機構(WAM)が実施する社会福祉振興助成事業では、政策動向や国民ニーズを踏まえ、NPOや非営利任意団体等、民間の創意工夫ある活動や地域に密着したきめ細かな活動等に対して助成を行い、高齢者・障害者が自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう必要な支援等を行っています。

こうした国や地方公共団体などが行う公的な福祉サービスでは十分カバーすることができないニーズに対応するNPO等の活動に助成するとともに、WAMが適切な情報提供、助言等の働きかけを行うことによって、地域のさまざまな機関や団体等との連携や協働を深めることで助成事業の効果を最大化し、広がりを得られるよう支援しています。

そのような取組みの一環として、資金面での支援とともに、助成金によって実施された事業の中から、優れた事業について、事業の効果や活動のノウハウ等を、同様な活動を行う団体等に広く紹介・情報提供していくことが重要であると考えています。

本日の事業報告会では、流通科学大学サービス産業学部 教授 加藤 曜子氏をお招きし、ご講演をいただくとともに、WAMの助成を受けて事業を実施された団体の中から、地域に密着したきめ細かな事業を行っている2つの団体に活動報告していただくこととしております。

また後半では、地域の中での連携・協働の方法など、活動を実施していくにあたって役立つポイントや、今後の計画の参考となるような工夫などを参加団体同士が相互に意見交換することにより、活動やその発展、団体間のネットワーク形成などに活かす機会となることを期待しております。

この事業報告会が、皆さまの活動のさらなる活性化や組織力の強化等に少しでもお役に立つ機会となれば幸いです。

独立行政法人福祉医療機構

プログラム

12:30	受付
13:00	開会・オリエンテーション 主催者あいさつ
13:10	基調講演「子ども家庭福祉環境をめぐる変化とNPO活動への期待」 流通科学大学サービス産業学部 教授 加藤 曜子 氏
13:40	助成事業報告 ①「つながりづくり支援者向きハンドブック作成事業」 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク 理事長 藤本 明美 氏 ②「出産直後のメール情報提供から仲間作り事業」 特定非営利活動法人 亀岡子育てネットワーク 理事長 田中 美賀子 氏
14:20	休憩
14:30	意見交換会
16:00	社会福祉振興助成事業のごあんない
16:10	閉会 個別相談会
17:00	終了

子ども家庭福祉環境をめぐる 変化とNPO活動への期待

加藤曜子(流通科学大学)

子どもをめぐる環境の変化

地域や家庭の子ども・子育てに関する事業の拡大＝虐待予防がより必要となりつつある家族の機能の脆弱化、孤立化社会

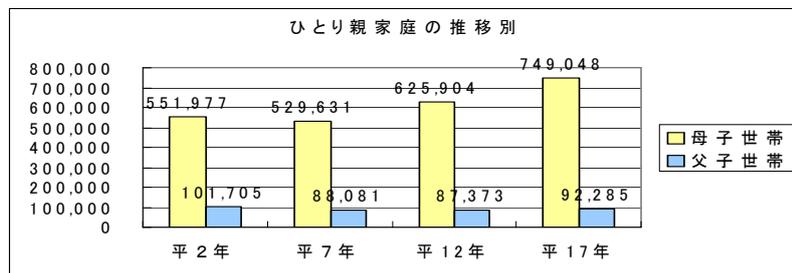
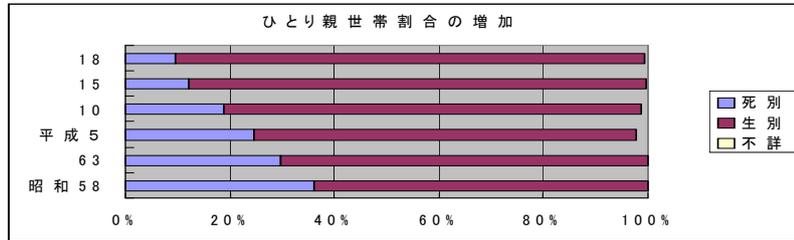
家族の多様化にともなう複雑な人間関係

妊娠から切れ目のない子育て支援の重要性

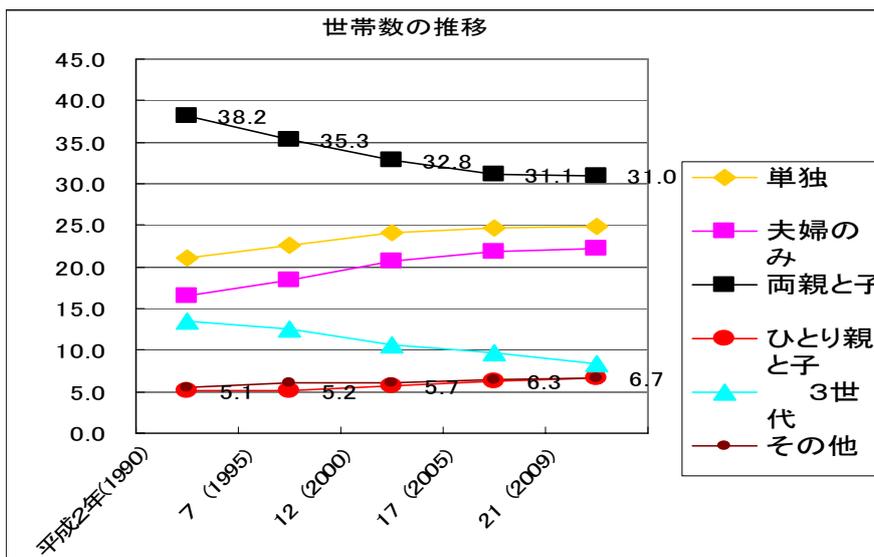
震災に伴う子育て環境。育児不安

子どもの不安な声を聞き取る必要な社会

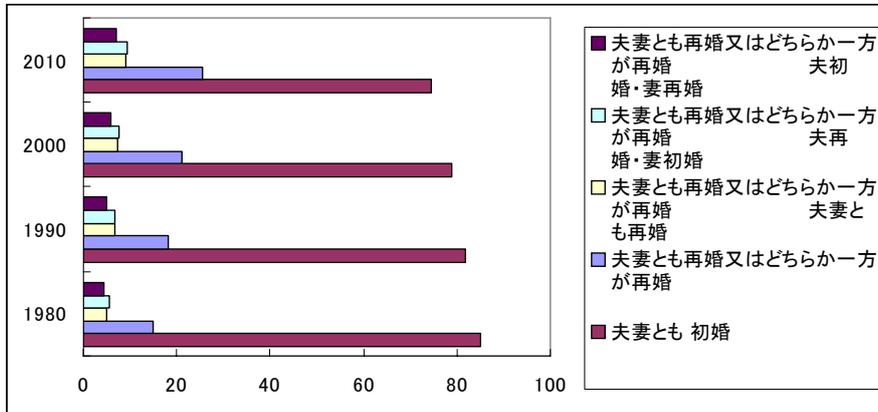
家族の形態が多様化



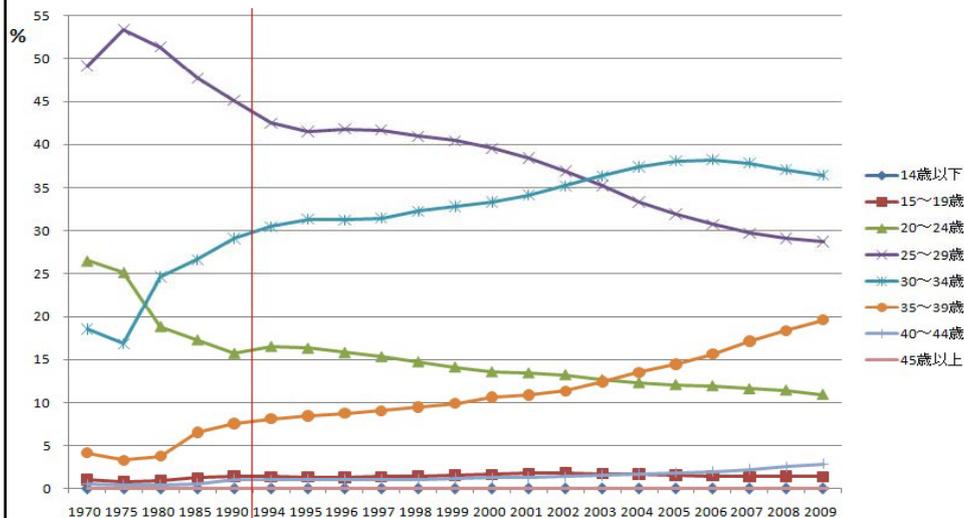
ひとり親の割合が全体に増加



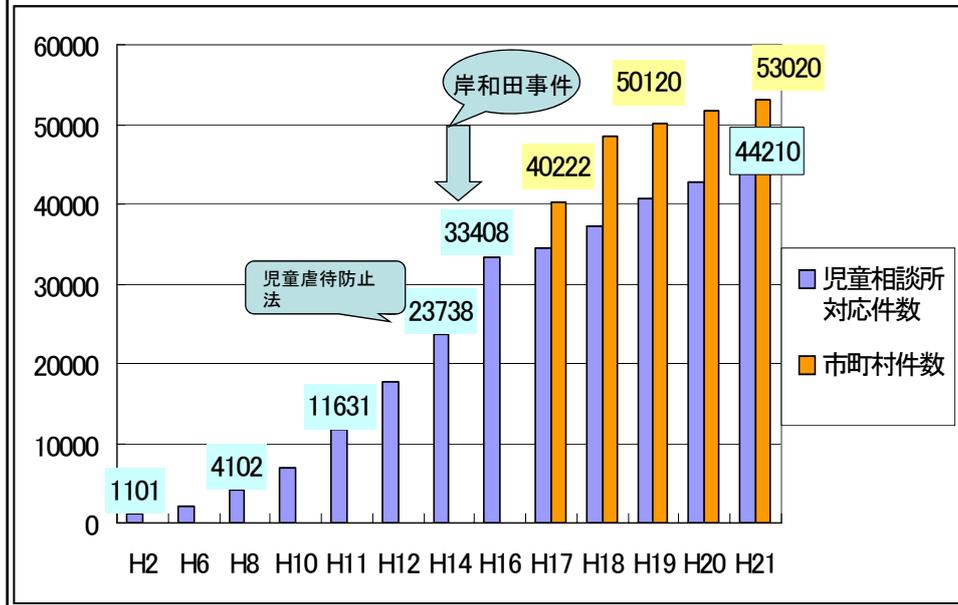
再婚率が増加している傾向



出産年齢の推移 若年と30代が増加



児童虐待対応件数推移



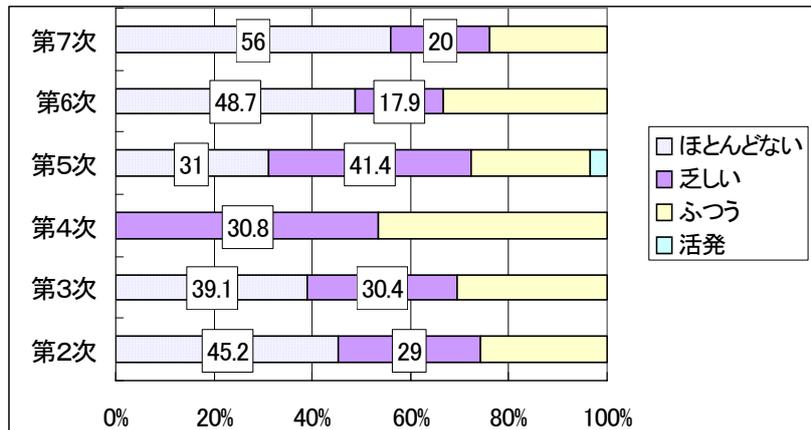
総務省での児童虐待調査結果 [2010年12月]

- 児童相談所から見た親
- 市町村から見た親
- 保育所から見た親
- 学校から見た親
- 施設から見た親

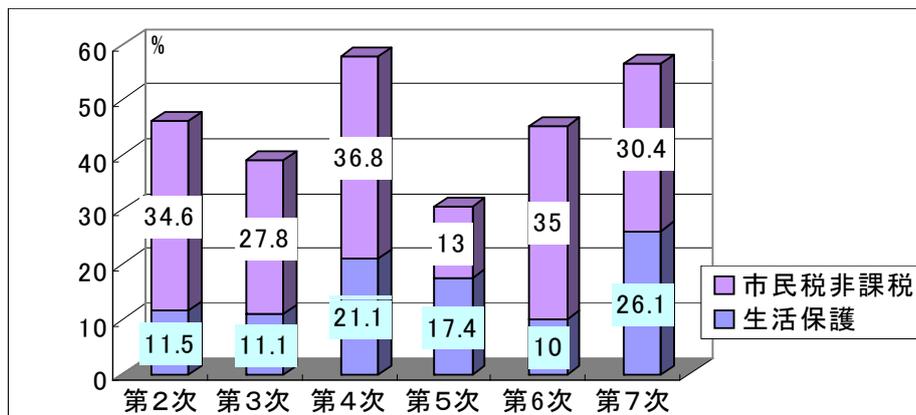


養育力の低下
子どもの育ちを知らない人の増加

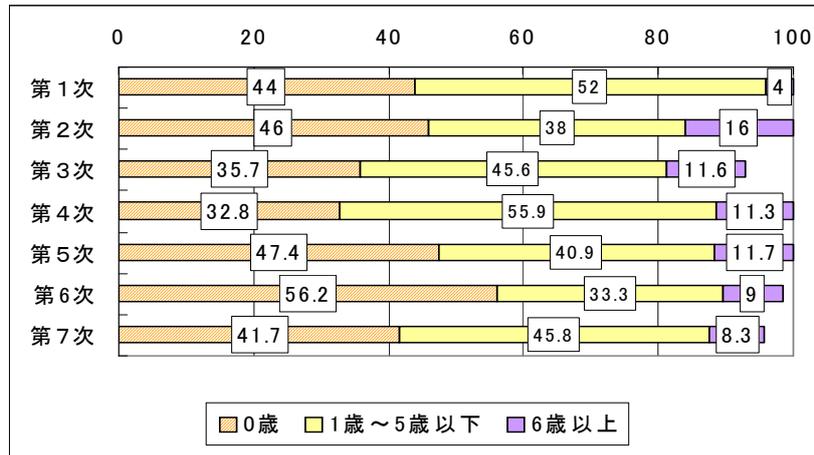
厚生労働省：児童虐待検証報告 (2011年7月)・孤立状況



児童虐待検証報告・ 生活困窮 ストレス



検証報告書：乳幼児から年長までを守る仕組みづくりの必要性



NPO活動への期待

NPO活動の役割

- 行政の補完的な役割
- 行政の代替的な役割
- 行政にない開発的・先駆的、先進的な役割



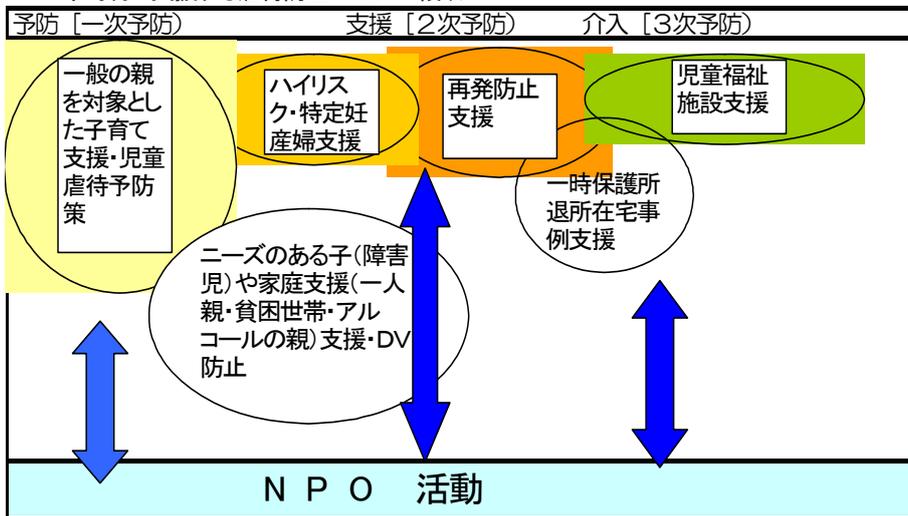
行政と民間団体・市民(親)がパートナーシップをとりあう時代

1990年代からの民間団体の果たしてきた役割

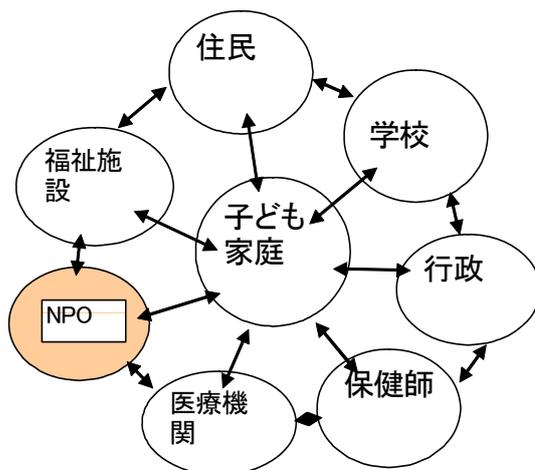
- 虐待予防＝子育て支援に対する行政、親とのパートナーシップ
- 親や子の代弁的な役割
- 民間団体からの啓発
- 多機関連携への重要性
- 民間同士の連携
- 民間ならではの継続的な関わりからの提言

子ども家庭福祉領域とNPO

市町村で支援する虐待防止のための領域



支援者としての活動



WAM助成事業

福祉活動支援事業		地域連携活動支援事業・全国・広域ネット活動	
1. 高齢者			
○ 孤立防止に関する事業 ○ 自立の支援に関する事業 ○ 介護を担う家族の支援に関する事業 ○ 在宅の高齢者・障害者医療ケアの支援	・配食・買い物・見守り・居場所づくりなど孤立防止・障害の特性に応じた自立支援。病院や施設の退院・退所する在宅移行支援事業・成育家庭において支援を受けられなかった発達障害者支援事業・認知症者と家族支援・老老介護支援・難病・終末期医療等重度状態者と家族支援・医療的ケアの必要な障害児・家族支援・介護福祉士のケアに関する研修事業		
2. 高齢者・障害者就労支援・権利擁護			
3. 地域や家庭における子ども・子育てに関する事業			
● 安全・安心な子育ての環境づくりを支援 ● 一人親家庭への支援 ● 児童虐待・DV防止、保護、支援を必要とする子ども・家庭を支援	・安全・安心な子育て環境づくり・一人親家庭への就労支援 ・児童虐待防止に向けた普及・啓発に関する事業 ・虐待・DV被害者のシェルター運営事業 ・児童虐待に向けた親支援に関する事業 ・児童虐待・DV被害者の自立支援に関する事業 ・病院・児童養護施設等の退院・退所した子どもへの支援に関する事業		
4. 貧困対策等社会的支援			
○ 生活保護のボーダーにある低所得者・ホームレス・ネットカフェ難民等支援○ 薬物・アルコール中毒者等への福祉的支援○ 福祉的支援が必要な者に対する支援者の確保・育成	○ 生活保護のボーダーにある低所得者・ホームレス・ネットカフェ難民等支援・多重債務者、低所得者に対する福祉セ策の利用、家計管理に関する指導・助言、薬物乱用に関する普及・啓発事業・薬物・アルコール中毒者への社会復帰支援事業・生活困窮者や貧困世帯への福祉的支援に携わる人材の確保・育成に関する事業		
5. 福祉・介護従事者の確保・育成・ボランティア活動の復興に関する事業			
○ 福祉・介護従事者の資質の向上、定着支援及び福祉・介護分野への人材の参入促進等に関する事業			

今後のNPO活動

妊娠から出産、家庭、施設、家庭復帰に場面それぞれのニーズに応じた子どもと、家庭への支援への応援

- 子ども家庭福祉の課題
- 児童虐待問題 予防・再発予防・親支援・施設入所を含めた子どもの自立支援
- DV問題・親の薬物・アルコールなどメンタルヘルス
- 貧困問題
- 震災への復興
- 子育て支援の強化

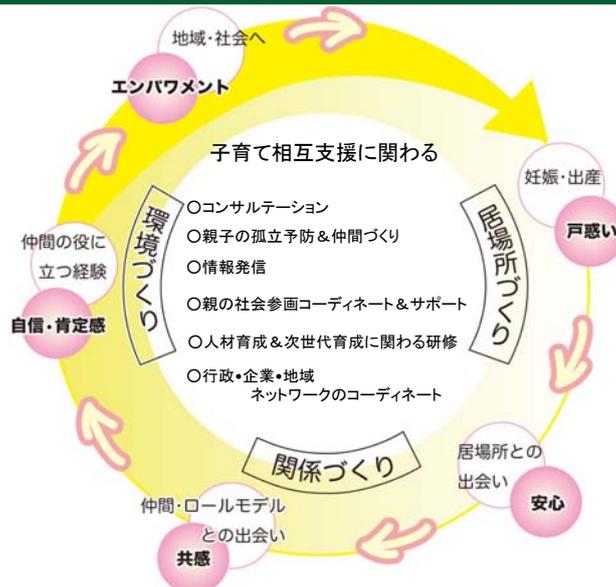
孤立化防止、親教育、子どもの力や意見をくみ上げていく方策、子どものニーズに応じた適切な支援、柔軟な対応

つながりづくり 支援者向き ハンドブック作成事業



NPO法人京都子育てネットワーク
理事長 藤本明美

つながり ひろがる 循環型の子育て相互支援の社会へ



団体の危機・・・

◆メンバーの思いの違い

- ①自分の仲間づくり・楽しみ・生きがい
- ②社会課題を解決していくための活動

◆組織内のバランスが崩れている

- ①やりたいこと
- ②やらなければならないこと
- ③できること(マンパワー)
- ④活動に見合ったお金

危機をのりこえるために

◆代表にとって必要だったもの

- ①リーダーの支え合いの場(京都きつずプロジェクト)
- ②学びの場

◆メンバー、団体にとって必要だったもの

- ③対話
- ④学び合い
- ④助成金

いきついたキーワード

◆活動の可視化、言語化

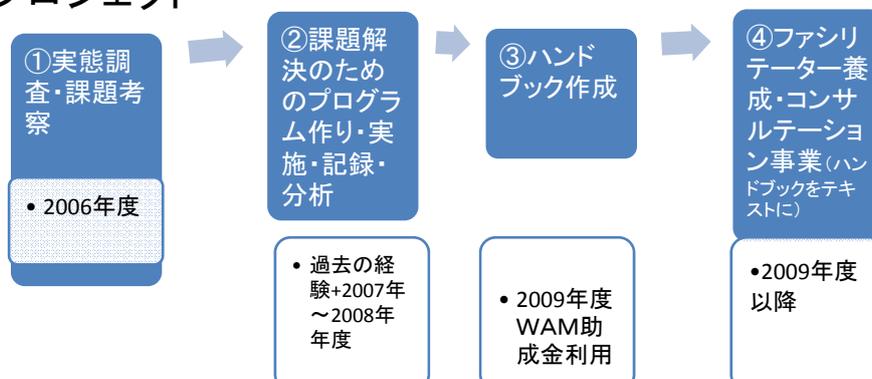
今まで活動してきたことの振り返り・考察を深めるとともに、次の世代に伝えることができる。

◆循環型の子育て相互支援

◆コンセンサスの重要性

つながり作りプロジェクト

循環型の子育て相互支援の活動を言語化・可視化して、つながり作りをする仲間を増やしていくためのプロジェクト



まずは実態調査①課題と期待

- 2006年 子育てグループ実態調査結果
 - ①子育てグループに参加していても「支え合う」「話し合う」などの関係性がコミュニケーション不足によりうまく作りにくい現状
 - ②グループの運営に関わることで「仲間ができた」「成長できた」などエンパワーされることが多い
 - ③私も何かできるかな?やってみたい!と半数以上の参加者が前向きに考えている

つながり作りプロジェクト結成②

- 2007年～2008年
「子育てコミュニティベース～ここから～」の実施
 - ①「プログラム作り」
乳幼児の親同士のつながりを紡ぐ⇒役割を担いながら活動を楽しむことができるようにコーディネートする⇒参加者の自主的な活動へ発展するようにサポートし、グループを立ち上げる
 - ②実施、記録、分析、検証
5か所立ち上げ実施,検証

*京都新聞社会福祉事業団助成金
*全労災地域貢献助成事業

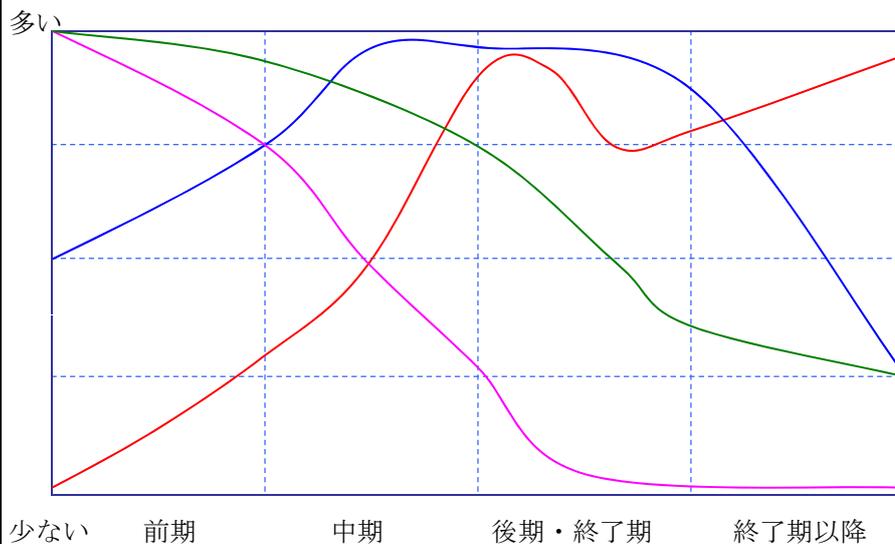
つながり・育み合うプログラム 仲間づくりのためのファシリテーション 実践ハンドブック

目次

- 第一章:子育てグループなどへの参加者の現状～出てきている人は大丈夫ってホント?!
- 第二章:「子育てコミュニティベース」の実践
- 第三章:「子育てコミュニティベース」のグループ発達のプロセスと
- 第四章:実践! 仲間づくりツール
- 第五章:実践! お役立ちツール

親の力を引き出すグループ作り

1. グループ成長と ファシリテーターのかかわりの変化



2. 参加者個人の気持ちの変化

不安と期待

↓
安心と期待・「仲間」を意識し始める

↓
できることをやってみようかな

↓
達成感(感謝されてうれしい)

↓
積極的参加

3. 参加者同士のかかわり合いの変化

知り合い

↓
認め助け合い

↓
意見を出し合い

↓
協力し合う

4. ファシリテーターの関わりの変化

先導型・ 援助型

- 自分らしさを出して安心して参加できるかかわりと場づくり
- 丁寧な受け入れ・お互いさまという関係づくり
- 課題が出てきたときみんなで話し合う関係作り

促進型

- 仲間を通してお互いの良さを発揮し、エンパワメントし合える関係を作る
- 不安や課題があればメンバー同士で話し合い解決できるよう促す
- ひとりひとりの意見を引き出し合いながらグループへの参加意欲、所属意識が高まるよう配慮する

委任型

- こうあらねばという形にこだわらず、グループの特性を理解して見守る
- 共通の目的に向かって役割分担をしながら楽しんで運営を進めていけるよう見守る

5. 初期（ドキドキ期）

安心

- 基本的なルール作り

参加

- 自己紹介あそび ・親同士が仲良くなるあそび

エンパワメント

- お互いを知りわかりあう

6. 中期(ワクワク期)

安心

- 自己紹介ゲームや親同士が仲良くなるあそびを通して名前を覚えたり自己開示をして違いを認めつつ、より親しみをもちあう

参加

- 他者の子どもの個性・発達を理解し合う機会
- 情報交換をする(地域マップづくり・おしゃべりタイムなど)
- 子どもを見あいつこしながら活動する(工作・クッキングなど)

エンパワメント

- すべての場面の中でお互いの良さを気づき伝え合う

7. 後期 (ニコニコ期)

安心

- より深い自己開示を楽しみつつ、他者を通して自分が受け入れられている気持ちを味わう

参加

- 活動内容を話し合い、役割分担しながら協力して活動する。
- 課題に向けて話し合う。

エンパワメント

- みんなの力で活動を楽しめる達成感、誰かの役に立っている自己肯定観を味わう

8. 自立（ドキワク期から新たなスタートへ）

安心

- グループとしての自立への不安を話し合いで解決する

参加

- これからの役割分担やルールを話し合う

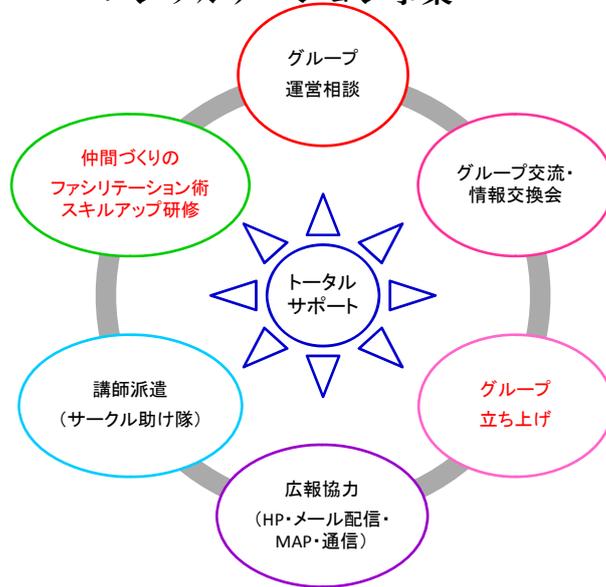
エンパワメント

- メンバー同士の手で成し遂げていくプロセスを心から喜び合う。

事業をおえて

- 1. 作成のプロセスでスタッフが成長
- 2. 団体の「強み」が最大限活かされたものができあがり、ミッションが明るくなる（参考①）
- 3. 京都市社会福祉協議会とサロンを協働でつくる事業がスタート（2011年度～）
- 4. 他府県からファシリテーター研修の依頼がきており、ますますこの事業の意義を実感

参考①地域の子育てグループを支えていくための
コンサルテーション事業



平成23年度独立行政法人福祉医療機構助成事業報告会

出産直後のメール情報提供から仲間作り 事業

★子育てしやすいまちになるように★

NPO法人亀岡子育てネットワーク
理事長 田中美賀子

平成23年10月22日（土）



活動歴

- 1998年 発足
 - 1999年 活動開始
 - 第1回子育てサロン「ママとパパのゆりかごひろば」開催
 - 2002年 口コミ子育て情報誌「はじまる はぐくむ はんどぶっく」発行
 - 2007年 子育て情報携帯メール配信事業「あったかめ〜る」開始
 - 2008年 旧一の宮幼稚園で「ゆりかごひろば」を開催
 - 2009年 **独立行政法人医療福祉法人助成事業**
 - 「出産直後のメール情報提供から仲間づくり事業」
 - NPO法人亀岡子育てネットワーク設立
 - 2010年 「ゆりかごひろば」亀岡市から受託 週3日開催へ
 - 子育て情報季刊誌「子育てあるある」創刊
 - 法人事務所開設（亀岡駅前）
 - 2011年 「あったかめ〜る」京都府内全域に配信開始
 - 「京都府女性チャレンジオフィス」受託
- 【受賞歴】 2009年 京都府第3回京都府子育て支援表彰「地域貢献部門」
2009年 京都市町村・地域自治功労者表彰「地域力再生功労者・団体の部」
2011年 第29回京都キワニスクラブ社会公益賞

主な事業

親子の居場所づくり

親と子のほっこりスペース「ゆりかごひろば」
旧公立幼稚園跡と亀岡駅前



情報発信

子育て情報携帯メール配信「あったかめ〜る」
子育て季刊情報誌「子育てあるある」
HP twitter Facebook



子育て家庭向け保育付講座・講演会

0歳児の親のための「親力アップ講座」
お父さんと一緒にお弁当を作ろう
メイクセラピー講座

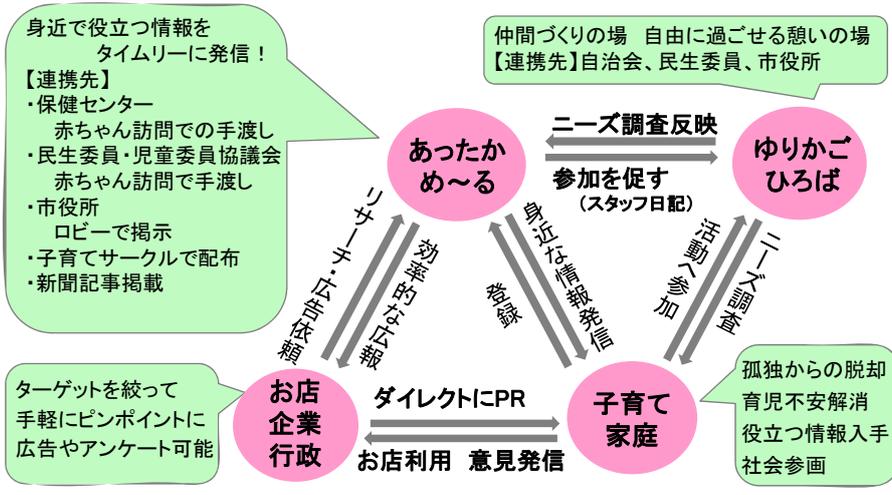


行政や専門家に子育て家庭の声を届ける

京都府、亀岡市、教育委員会、商工会議所など審議会多数出席

助成事業紹介

携帯メール情報提供と子育てひろばで 切れ目のない支援



助成事業終了後の展開

【ゆりかごひろば】

- ・国の子育て支援拠点事業に
- ・開設日 40日/年 → 144日/年
- ・利用者数 約1,300人 → 3,450人



【あったかめ〜る】

- ・エリア拡大 亀岡市内→京都府内全域
京都府内子育て支援7団体と協力
- ・登録会員 300家庭 → 4,000家庭
- ・あったかめ〜る北部の会・スージー発足
- ・専用HPアップ
- ・広報用カード制作



あったかめ〜る会員さんの声

- ・いつも情報ありがとうございます。あったかコラム楽しみにしています♪
- ・引越したばかりで不安でしたが、沢山の情報に助けられています！！
- ・月に一度届く、月齢に合わせたメッセージはすごく励みになります!これからも楽しみにしています!
- ・いつもメールありがとうございます。ほっとするコラムに癒されます。それにお出かけ情報はかなり役立って助かってます。これからも大変だと思いますが、是非ともこの取組を続けてほしいと望んでいます。
- ・毎週末イベント情報をチェックしています。わが家にはなくてはならない情報ツールです。
- ・毎日、孤独で子育てをしているので毎週金曜に届くメールに癒されています。
- ・いつもあったかメールはまだかなあっと楽しみにしています 亀岡市に引越してまだ一年ちょっと。全く子育て関係の情報や施設が今だよくわかってないので、参考にさせてもらってます(^^) 
- ・いつも参考にさせてもらってます。特にイベントと献立が嬉しいです。

あったかめ〜るでの配信事例

亀岡市生涯学習市民ニーズ調査

これまであまりニーズを把握できなかった子育て世代の現状及び今後のニーズが把握でき今後の展開に新たな視点が求められることになった。携帯メールによるアンケートはアンケート調査における新たな方法の一つとして有効である。

MOVIX京都の「ほっとママシネマ」

おかげさまで、あったかめ〜るでご案内していただいてから、急激に応募数が増えまして、それと共にメールを受け取られたママさんから、「友達にも教えていい？」というお問合せも多々頂戴いたしました。結果、開催日までに募集定員が満席になり、定員枠を広げる形となりました。やはり赤ちゃんなので風邪等でキャンセルされた方もいらっしゃいましたが、当日は天候にも恵まれ、多くのママさん&赤ちゃんに楽しんでいただけたかと思えます。ご来場の皆様には本当に多くの温かい声を頂戴し、中には「今日お出かけデビューなんです！」というママさんもいらっしゃいました。MOVIX京都も充分ニーズがあると感じましたので、今後もタイミングをみて、実施していきたいと考えております。また、その際は色々とお願ひすることがあるかと存じますが今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



それまでにしてきたこと

- ・ 10年間活動を継続
- ・ 行政やNPOなどの事業に参画
- ・ 行政と一緒に事業に取り組む
- ・ 協働について学習会を実施
- ・ 京都府内の子育て支援団体でネットワークを構築し活動
- ・ 全国の子育て支援関係者のメーリングリストに参加
- ・ メンバーが様々な組織に所属
- ・ とにかくいろんなところに出かける（他府県にも）
- ・ 自分たちができること・していることを、どんどん発信
- ・ 事務能力を磨いた



団体の変化

- 活動会員 12名 → 35名
 - 活動日数 月1~2回 → 月20日以上
 - 有給スタッフ 0人 → 20人
 - 予算規模 50万円 → 300万円 → 1,000万円
 - 審議会等出席数 4 → 14
 - 表彰 0 → 3
- ・ 事務所開設 ・ 固定電話所有 ・ インターネット回線有
 - ・ 法人設立 ・ 団体内に活気が出てきた
 - ・ 団体の信用度アップ ・ スタッフの意識が向上
 - ・ 有償によりスタッフの定着率アップ
 - ・ 行政広報誌や新聞記事掲載が増えた
 - ・ 多種多様なところとの連携が増えた

まとめ

初めて200万円という大きな額の助成金にチャレンジ！
今までできなかったことができた！
そして、大きな変化、大きな収穫、大きな前進！
今までの種まきが、芽が出て、大輪の花が開いた！

チャンス！

継続

スタッフ減少
資金不足
熱意・意識低下
活動マンネリ
解散の危機

2009年は激変の年！
独立行政法人福祉医療機構の
助成事業を実施したことが
亀岡子育てネットワークの
ターニングポイントに★